

BOAT RACER

ボートレーサー

成り上がり人生



ボートレーサーは非常に魅力的な職業だ。現在のテレビCMもそれを前面に押し出したプロモーションをしている。近年は売り上げの増加とともに選手の賞金額もアップし、ますます夢は広がるばかり。そんな賞金を求めて「成り上がってやる!」とハングリー精神をむき出しにして奮起する選手もいる。そんな賞金と選手の成り上がりエピソードを紹介しよう。

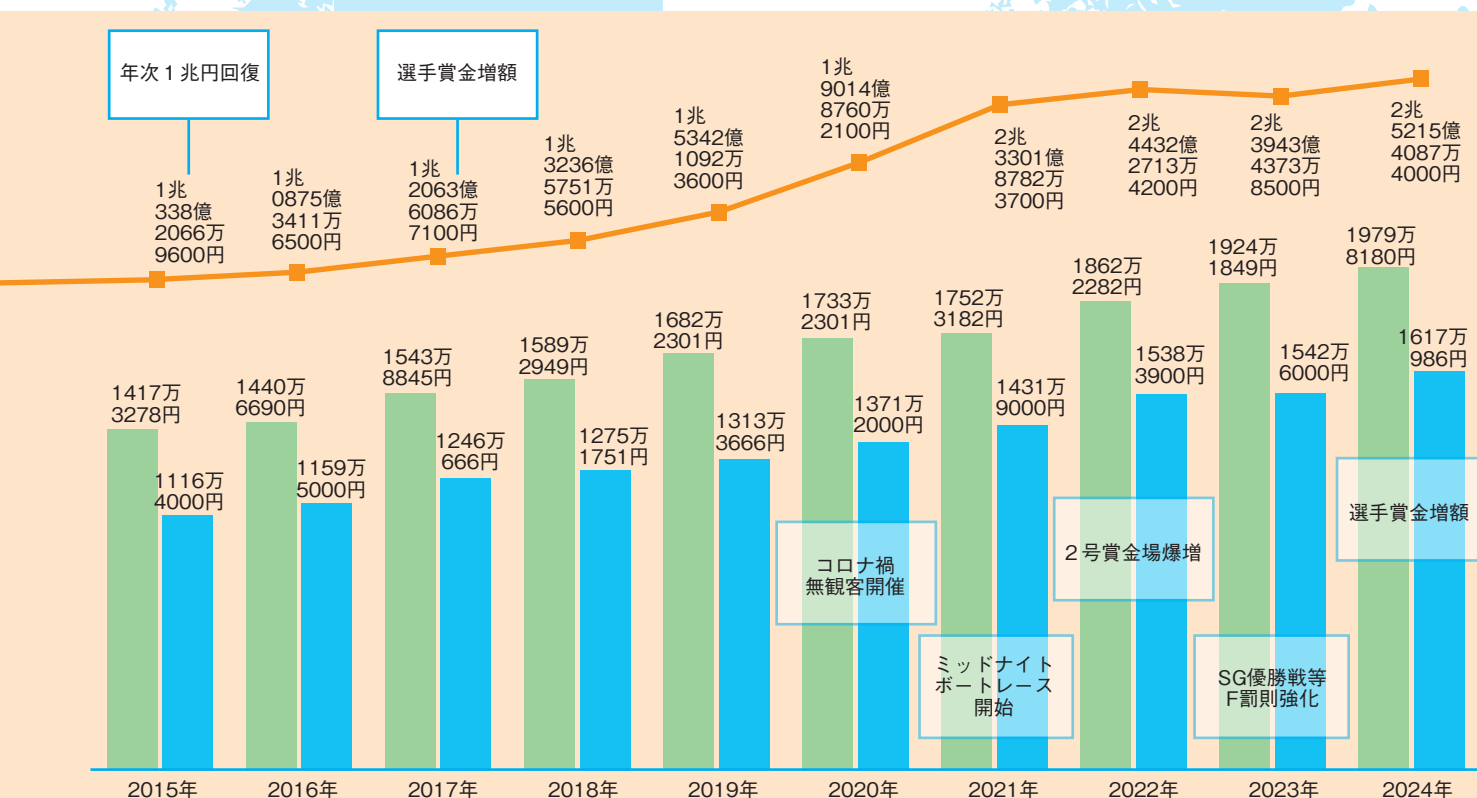


業界の “成り上がり” グラフ 売上が底をについてからの V字回復



下のグラフをご覧ください。これはこの20年における年次の売上と選手の平均獲得賞金を並べたもの。なお、棒グラフ左（黄緑色）が一般に言われる「平均年収」で、全選手の獲得賞金を合計して人数で割ったもの。24年のレジャー募集の広告には「平均年収約1900万円」と記載されているが、しっかり計算すると1979万円で2000万円が目前に迫っている。右（青）が中央値。例えば1600人選手が登録されていたら、その真ん中の順位（800位）の賞金額を記したものの。平均だとトップの選手が大きく金額引き上げるので、こちらの方が、大多数の選手の稼ぎが見えるのではないか。

これを見ると売上と選手賞金の上下動が決してリンクしていないことがわかる。売上は05年時点で1兆円を切っており、年を追うごとにさらに下がっていく。トドメとなったのが11年の東日本大震災で、休催の影響もあり8634億円まで落ち込んだ。



BOAT RACER 成り上がり人生

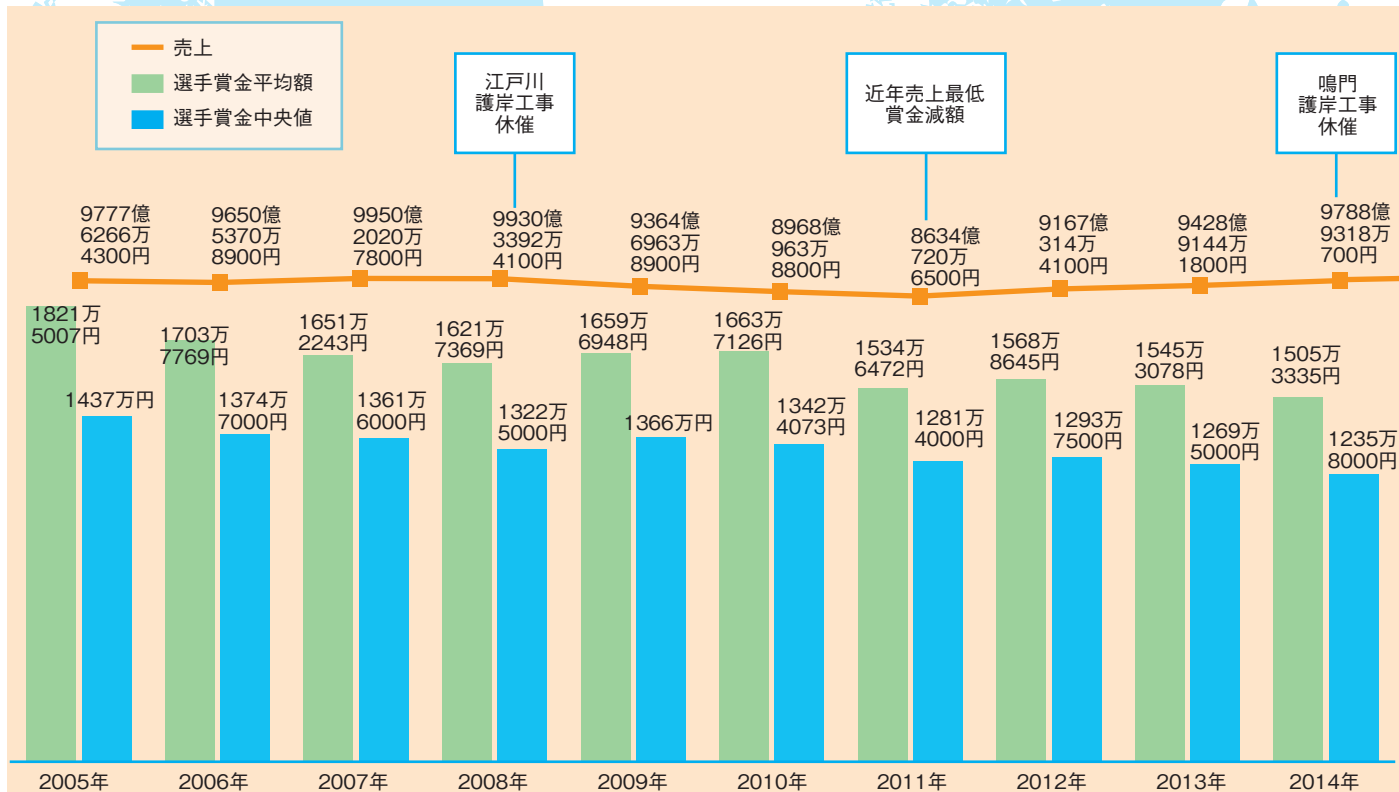
表2 令和7年度優勝賞金

グレード	競走名	優勝賞金
SG	グランプリ	1億1000万円
	グランプリシリーズ	2000万円
	ボートレースクラシック	4200万円
	ボートレースダービー	4200万円
	ボートレースオールスター	4200万円
	ボートレースメモリアル	4200万円
	グランドチャンピオン	3700万円
PGI	オーシャンカップ	3700万円
	チャレンジカップ	3700万円
	クイーンズクライマックス	1700万円
	BBCトーナメント	1300万円
	マスターズチャンピオン	1300万円
	ヤングダービー	1300万円
	レディーズチャンピオン	1300万円
GI	スピードクイーンメモリアル	1300万円
	周年記念	1200万円
	高松宮記念	1100万円
	ダイヤモンドカップ	1100万円
GII	地区選手権	640万円
	秩父宮記念杯	500万円
	全国ボートレース甲子園	500万円
	レディーズオールスター	500万円
	モーターボート誕生祭	500万円
	モーターボート大賞	500万円
	レディーズチャレンジカップ	500万円
GIII	イースタン・ウエスタンヤング	215万円
	クイーンズクライマックスシリーズ	220万円
	マスターズリーグ戦	120万円
	オールレディーズ	120万円
	特別タイトル(企業杯)	120万円
一般	一般3大競走(正月、GW、お盆)	168万円
	ボートレースバトルトーナメント	158万円
	一般競走(1号場)	80万円
	一般競走(2号場)	100万円

※優勝賞金には副賞を含む

※赤字の賞金は令和7年度より増額されたもの

表1 売上と選手賞金の平均値と中央値



このタイミングで選手賞金へも大きなメスが入られた。それまでSGの優勝賞金は一律4000万円だったのが、現在のグランデ5が3500万円、それ以外は2500万円まで減額。GIの優勝賞金も大きく下がった。

これに伴って選手賞金はさらに下降を続け、15年の平均年収は1417万円、中央値は1116万円までダウンした。売上面ではその15年に売上1兆円を突破し、その2年後に選手賞金が増額された。それでもかつての水準に戻るにはさらに時間を要し、売上2兆円を超えたコロナ禍以降、2号賞金場が増えた影響などにより、05年くらいの水準に戻った。そして現在は表2の賞金体系でレースが行われている。

売上が大きく上がることで、よ

表3 級別平均賞金

	平均賞金
A1級	4200万7578円
A2級	2247万96円
B1級	1380万9834円
B2級	550万723円

うやく選手に恩恵がある。しかも瞬時ではなく、数年遅れてその波がやってくるということだ。

具体的に選手がどの程度稼ぐのか。それは表3をご覧いただきたい。これは24年における級別の平均賞金額で、A1級は4200万円。A2級でも2247万円を超える。やはり、成り上がるためには、レースで結果を出してA級で活躍する必要があるそう。

サラリーマンの生涯賃金を わずか1年で稼ぐ選手に なってみないか



ボートレーサーを目指したきっかけを聞くと、その回答は大きく2つに分かれる。「親などの勧め」そして「収入」。8割以上はこのどちらかに当てはまると言っているだろう。

やはり魅力的なボートレーサーの収入。一般的なサラリーマンの生涯賃金は、高卒で約2億円、大卒で約2.6億円と言われている。約40年、一生懸命働いて得られるこのお金をトップの選手はわずか1年足らずで稼いでしまう。その最上級が右の表4に示した年間の最多賞金獲得選手たち。3億円レジャーこそ誕生してはいないが、年間「億」稼ぐことは、誰しもが一度は憧れる夢だ。これこそ、成り上がりの極地といえる。

1000〜1400人の応募者の中から25倍前後の狭き門をくぐり抜け、養成所で1年間の訓練を耐え抜けば、広がるチャンスは無限大。応募資格に当てはまるならば、その可能性にかけて挑戦してみてはいかがだろうか。

表4 年別最多賞金獲得選手

年	最多賞金選手	最多賞金額
2005	辻 栄蔵	1億8947万3800円
2006	松井 繁	2億2800万5000円
2007	魚谷 智之	2億0537万4000円
2008	松井 繁	2億1259万3000円
2009	松井 繁	2億5120万4000円
2010	中島 孝平	1億9381万2000円
2011	池田 浩二	2億5085万4000円
2012	山崎 智也	1億6351万2000円
2013	池田 浩二	1億9823万3000円
2014	菊地 孝平	1億6954万9000円
2015	山崎 智也	2億2933万0000円
2016	瓜生 正義	2億1373万4000円
2017	桐生 順平	2億1224万1000円
2018	峰 竜太	2億0292万4000円
2019	石野 貴之	2億2564万2666円
2020	峰 竜太	2億5302万7000円
2021	瓜生 正義	1億7278万2000円
2022	白井 英治	1億8779万2457円
2023	石野 貴之	2億2203万0000円
2024	毒島 誠	2億4678万6033円

ボートレーサーに 成り上がれ!

<選手募集要項>

【年齢】15歳以上30歳未満

【学歴】入所日において中学校を卒業していること

【身長】175cm以下

【体重】男子…49kg以上57kg以下、女子…44kg以上52kg以下

【視力】両眼とも裸眼で0.8以上

【弁色力】強度の色弱でないこと

【聴力その他の健康状態】選手養成訓練を行うのに支障のない者

※第2次試験の受験回数は5回まで

表5 養成所受験倍率とデビューへの最終倍率

期	応募者数	合格者	倍率	デビュー	最終倍率
130期	1293人	52人(男性42人、女性10人)	25倍	27人(男性21人、女性6人)	48倍
131期	1197人	52人(男性42人、女性10人)	24倍	25人(男性19人、女性6人)	48倍
132期	1397人	50人(男性40人、女性10人)	27倍	27人(男性19人、女性8人)	52倍
133期	1217人	52人(男性42人、女性10人)	23倍	27人(男性18人、女性9人)	45倍
134期	1335人	52人(男性38人、女性14人)	26倍	25人(男性16人、女性9人)	53倍
135期	1034人	51人(男性38人、女性13人)	20倍	29人(男性20人、女性9人)	36倍



BOAT RACER 成り上がり人生



ボートレーサー 成り上がり エピソード

あの時脱落していたら、
今の栄光はなかった

三浦永理(静岡)

養成所の劣等生から 女子の頂点へ

第1回賞金女王決定戦(クイーンズクライマックス)優勝者といえば三浦永理。イン日本一の大村で3コースからまくり差して突き抜け、初めてティアアラを被った。その後も調子の浮き沈みなどはあったが、女子のトップクラスとして走り続け、昨年は久々のタイトル(GIIレディースチャレンジカップ)を獲得した。

そんな三浦だが、養成所時代は劣等生だった。リーグ戦の勝率は4・25。優出・優勝はおろか、準優勝戦に乗ったことさえなかった。当時を振り返ると「養成所時代の成績は低かったですね(苦笑)。そこから現在の成績があるのは、ペラ小屋に恵まれたからだと思います。服部幸男さんをはじめ笠原亮さん、後藤正宗さん…みなさんに引っ張ってもらいました。みんな1節に1枚作るんですよ。それをマネしてやっています。それと同期の川上剛も、養成所時代には、私と一緒にさらに悪いかという成績だったんですよ」



ね。その剛がどんな成績を上げているのを見て、自分もやればできるかもと思ったんです。(11年当時)

今の養成所のシステムだったから、途中で振り落とされていたかもしれない。養成所時代は劣等生でも、デビューしてしまえば、あとは本人の努力次第。それを体現してみせた成り上りの女王といえる。



黒澤めぐみ(東京)

一世一代の勝負駆けに成功 今期A2級に初昇格



25年前期の勝率は5・55。黒澤めぐみが初めてA2級に昇格した。キャリアの長いファンなら、黒澤がここまでの選手になるなど思いもよらなかったのではないだろうか。というのも黒澤はデビュー

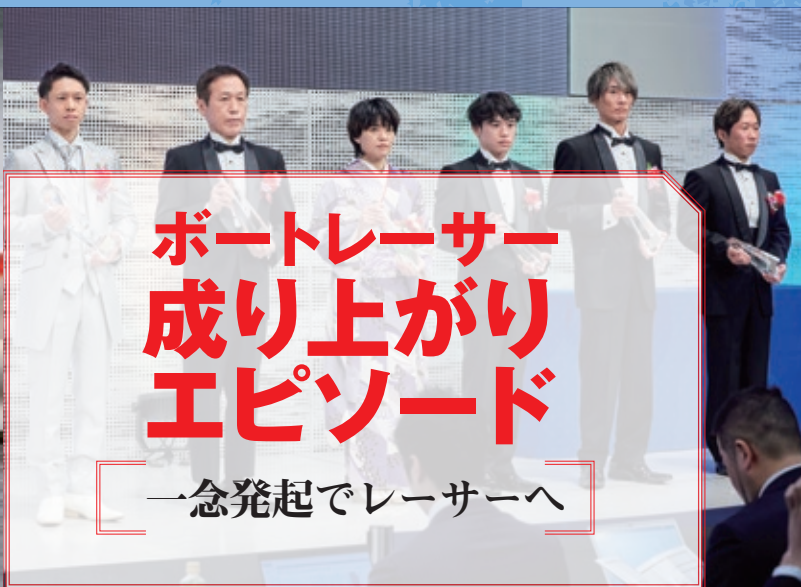
して数年、全く成績が上がらず、選手人生をかけた「4期通算」の勝負駆けに追い込まれたことがあるからだ。

必要な勝率は3・80。それに対して残り5節の時点で3・55。一見すぐに上がりそうにも見えるが、4期通算の勝率となると出走回数が多いため、1着を取っても飛躍的に勝率が上がることはない。はつきり言って絶望的な状況だ。

しかし、追い込まれた黒澤は突如覚醒する。それまでほとんどなかった白星を挙げまくり、みるみる勝率が上昇。勢いに乗って初優出を決めると、見事に4期通算勝率を回避した。特に終盤3節は圧巻で、その期間だけの勝率は6・94。A1級上位の強さを見せた。

この当時のことを黒澤はこう振り返る。「勝率計算は毎日やっているとイヤになるので、1節ごとにやってみました。だけど気持ちは減入りますよね。『6着はダメ』って思っていると、かえって引き寄せてしまうので、それも考えないようにして。とくに最後のレースは緊張しました。1着を取ったら選手が続けられるという一戦だったので。成功したから話せますけど、『4期』の勝負駆けは本当につらい。もう二度と味わいたくないです」。

これが20年の話。当時の年収は500万円程度だったが、勝負駆け成功後はそれが2倍、3倍と跳ね上がり、24年は約1900万円稼いだ。A2級に上がった今年、どこまで成り上がるだろうか。



ボートレーサー 成り上がり エピソード

一念発起でレーサーへ

三つ子のパパ、 一念発起の脱サラ

佐藤博亮(愛知)

佐藤博亮は脱サラを成功させた成り上がりレーサーの一人だ。

トヨタのディーラーで整備士として勤めていた佐藤のもとにある日、現在の師匠である平本真之が来店した。「すごいキラキラしていたんですよ。何をしているか聞いたらボートレーサーをしているって」。佐藤は当時23〜24歳。妻のお腹には三つ子もいて、金銭的にも転職を考えていた時期だったという。転職と感じて一念発起。当時は家族の反対もあったと言うが、「このままいっても何も変わらないと思って。とりあえず仕事をしながら勉強はさせてもらって。(養成所に)受かってようやく話せました」と人生を変えるため、ボートレーサーとしての門を叩いた。

1年間の厳しい訓練を終え、25歳の時に晴れてボートレーサー



に。デビュー当初はスタート事故がかさみ成績も安定しなかったが、19年前期から現在までA級をキープするまでに成長した。2月末時点で積み上げた優勝は8回。昨年の獲得賞金は3000万円超えと、サラリーマン時代では受け取ることのできなかつた大金も受け取れるようになり、人生を大きく変えることに成功した。

守田俊介(滋賀)

後がない状況で本栖へ
デビュー後は
華麗に成り上がる

SGV2、GIV4をはじめ、輝かしい成績を残す守田俊介だが、ボートレーサーになったのは、止むに止まれぬ事情があったからだという。「本栖(養成所)には、高校も辞めて、後がない状況で入りました。本栖に入る前に親が離婚して、弟と妹が6歳と8歳差。最初からそんな気持ちで試験を受けたわけじゃないけど、その状況になって、オレがお金を稼がなかんって」。

ボートレーサーという仕事にたどり着くまで紆余曲折があった。「高校卒業する前に、なんかチャレンジしてみようって思いついたのが公営競技でした。最初はジョッキーを考えたけど、いろいろ調べると縁故関係が強い世界みたいだったからすぐにあきらめた。で、次に競輪を考えて、近所やっている人がいたので、どうした



らなれるのか聞いたら、師匠について練習して、自転車を押えるのに何十万円かかる、みたいなことを言われたんです。オレ、カネはないから無理やなって思ったけど、1週間ぐらい友達自転車を借りて川沿い走ったり、太らなアカンからメシをグワーッと食ったけど、若かったから太らんくて。1週間やって無理って思った。それで最後に考えたのがボートだった」。消去法的に選ばれたわけだが、これが天職だった。

デビュー当初から「天才」の称号がふさわしい活躍でボート界を席卷する。賞金面でもデビューしてすぐに稼ぎ出し、高い位置で安定。40歳の時、ダービーでSG初優勝するとその優勝賞金を全額寄付するということでも大いに話題になった。最初こそ事情があったものの、その後は見事に成り上がったレーサーと言える。

BOAT RACER 成り上がり人生



表7 日高逸子の年別獲得賞金

年	獲得賞金	順位
1985	309万6200円	1452
1986	922万3600円	992
1987	1876万8600円	320
1988	1822万8000円	366
1989	2690万1155円	159
1990	2918万9000円	145
1991	3060万1000円	155
1992	1663万8640円	611
1993	3326万2197円	139
1994	3526万9832円	123
1995	3831万7560円	103
1996	2049万0500円	467
1997	1485万9000円	769
1998	3289万1500円	170
1999	882万0000円	1371
2000	2279万9000円	440
2001	3726万4200円	128
2002	3569万1100円	143
2003	4244万4000円	83
2004	3844万9000円	94
2005	5718万4100円	33
2006	3728万2000円	72
2007	3187万9000円	93
2008	2989万2000円	111
2009	3072万3000円	105
2010	3655万0000円	59
2011	2432万8000円	219
2012	3645万2000円	60
2013	3163万5000円	95
2014	4096万5000円	40
2015	2578万5000円	156
2016	2655万2000円	144
2017	2775万3400円	165
2018	3470万4000円	95
2019	3593万1500円	98
2020	2164万0000円	422
2021	1268万0766円	967
2022	3053万1500円	212
2023	2613万6000円	349
2024	2729万3848円	299

表6 女子レーサー生涯獲得賞金順位表(※は引退選手)

順	登番	選手名	生涯獲得賞金
1	3188	日高 逸子	11億4226万7198円
2	3232	山川美由紀	11億2412万8448円
3	3435	寺田 千恵	10億6916万5386円
4	3302	谷川 里江	8億7768万6580円
5	3618	海野ゆかり	8億5629万9552円
6	3334	角 ひとみ	8億0789万1701円
7	2983	※鵜飼菜穂子	7億3229万8248円
8	4050	田口 節子	7億0391万7830円
9	3175	渡辺 千草	6億9897万9331円
10	3289	高橋 淳美	6億7017万4859円
11	4502	遠藤 エミ	6億4184万7105円
12	3254	※柳澤 千春	6億0479万6822円
13	3280	※垣内 清美	5億9630万8074円
14	3611	岩崎 芳美	5億9282万8912円
15	3357	福島 陽子	5億4977万6103円
16	4208	三浦 永理	5億4898万2043円
17	3140	※佐藤 幸子	5億4172万4071円
18	3177	※宮本 紀美	5億3787万3937円
19	3580	水口 由紀	5億3163万3297円
20	4387	平山 智加	5億3107万2878円
21	4450	平高 奈菜	5億2789万7375円
22	4190	長嶋 万記	5億2746万1312円
23	3845	中谷 朋子	5億2673万2149円
24	3470	新田 芳美	5億1750万5430円
25	3900	香川 素子	5億1709万6531円



「私は貧乏でした」と公言しているのが日高逸子。幼少期に母親が

極貧時代から
38倍の収入へ

日高逸子(福岡)

蒸発。兄と共に新聞配達をしたりして生計を立てた。「(アルバイト代が)どれくらいだったかは忘れちゃった。今で考えると全然少なかったと思う」と笑いながら話すが、壮絶な幼少期は、多くのメディアに取り上げられてきた。

高校卒業後は信用金庫で働き、その後上京。旅行会社に勤務したが、極貧生活は続いていたという。「その時のお給料は12〜13万くらいだったかな? 手取りだったらもっと少なかったと思います。10万円もあつたかな? よく生活してましたよね(笑)」。40年以上前では物価が違ふとはいえ、東京で10万円生活…。想像に難く

その後はA1級に定着し、大村のレディースチャンピオン(当時は女子王座)でGI初優勝を飾った2005年は、自己最高となる5700万円を稼いだ。年収150万円時代からすると、実に38倍もの「給料」をもたらした計算になる。そして生涯獲得賞金11億

4200万円は、女子選歴代1位の「女子レーサーで最も稼ぐ」選手となった。

そして1985年にデビューした日高は、その年に約300万円の賞金を獲得。OL時代の2倍になった。そしてA級に上がった87年は、平均の1000万円を上回る1870万円を獲得。97年に長女を出産した時はわずか3か月でレースに復帰。「復帰前は、旦那さんにレース場の駐車場の車で待機してもらってました。練習の合間に授乳してまた練習に戻って。そんな感じで復帰を目指してました」と、早期復帰も実現させた。

転機はボートレーサー募集のテレビCMだった。「年収1000万円って出てたんです」。当時の日高の年収は約150万円ほど。ボートレーサーという職業よりも、年収1000万円に目を奪われた。